

平成 29 年 8 月 9 日現在

機関番号：80101

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2015～2016

課題番号：15H06846

研究課題名(和文)北海道各地におけるアイヌ音楽の伝承曲目及び伝承状況に関する調査研究

研究課題名(英文) A Research for the Traditional Repertoire of Ainu Music in Hokkaido and the Present State of its Succession

研究代表者

甲地 利恵 (KOCHI, Rie)

北海道博物館・アイヌ民族文化研究センター・研究職員

研究者番号：20761638

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、アイヌ音楽の研究基盤となる資料の情報を整理し、地域差や時代差を考慮しつつ伝承曲目の概要及び現況を明らかにすることを目的として、公刊されたアイヌ音楽の音声・映像資料の情報収集・整理、音声資料の音楽分析、道内各地の伝承団体の伝承曲目の調査と採録を実施した。その結果、当初予測以上に録音資料の情報を得られた一方、比較の基準とした『アイヌ伝統音楽』(1965)収録曲目が、必ずしも現在の伝承団体による演目と共通していないことが確かめられた。また、『アイヌの音楽』(1967)の音声資料を対象に拍節構造の分析を行い、「音頭一同」の歌唱形式が1節の拍節構造に影響を与える可能性について指摘した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to organize the information of Ainu traditional music, and to get the general picture of the entire repertoire, regional and time differences, and the present state of handing-down it. Then have executed to collect and organize the data and information of ever published materials of Ainu music, to make musical analyses, and to enforce field researches and record the recent repertoires of cultural associations in Hokkaido. As a result, audio material information has been collected more than expected. On the other hand, it is confirmed that the present repertoire of each local group does not necessarily have a lot in common with the list extracted from "Ainu Traditional Music (1965)," which is famous as a report of comprehensive research in early 1960s. Also, through the analyzation of tunes from an anthology disc "Ainu no Ongaku (1967)," pointed out is the possibility that responsorial singing style may have effects on the whole structure of the meter.

研究分野：民族音楽学

キーワード：アイヌ音楽 アイヌ文化 アイヌ古式舞踊 レパートリー 音声・映像資料 伝承状況 音楽分析 民族音楽学

## 1. 研究開始当初の背景

アイヌ音楽に関する音楽学的研究は、他の音楽に比べ研究の蓄積が多いとはいえない。数少ない先行研究の中には民族音楽学の研究史のうえでも重要なものいくつかあり、そこからの広範な研究展開が期待されている一方、アイヌ音楽の研究者が極めて少ないため多角的な議論の機会もほとんどなく、研究の前提となる基礎的な情報を共有する基盤もまだ十分に整備されていない。

さらに、アイヌ民族が先住民族・少数民族として被ってきた様々な歴史的・社会的な圧力は、アイヌ音楽の伝承も困難にしてきた。20世紀以降の録音資料によってアイヌ音楽の概要をつかむことはある程度可能とはいえ、全容の把握にはいまだ不十分・不均等で断片的といわざるを得ない。アイヌ音楽は地域により伝承曲目が異なるが、それらの情報蓄積も地域により差があり、比較考察を困難にしている。曲調や演奏様式などの時代的な変化の考察も必要だが、沙流川流域などいくつかの例外を除き、長期にわたって音そのものの記録が資料として遺されている地域はほぼないといえる。

その一方で、近年のアイヌ文化復興の動きの中、現在の各地のアイヌ文化伝承者らの中にはその地域由来の曲目の継承や復元への要望が高まっている。曲目の復元には、アイヌ語の歌詞や踊りの所作の解明に加え、旋律やリズム等の音楽面、演奏に必要な技術の再現に関する問題の解明を必要とする。つまり研究成果をもって伝承活動に還元することが切実に求められているわけだが、それにはアイヌ音楽の資料情報の整理、既存の音声資料の音楽的分析が不可欠である。その前提となる作業として、各曲目についての既存の情報を網羅的に収集・整備が求められている。

## 2. 研究の目的

本研究は、アイヌ音楽の研究及び伝承活動に資することを目的として、北海道の各地における

アイヌ音楽の伝承曲目およびその伝承状況について調査と研究を進めるものである。具体的には、既存の音声・映像資料(公刊物)に収録された音楽に関する情報の集約と整理を行うとともに、新たに実施する採録調査を通じて伝承の現況を把握すること、および、旋律構造や歌唱様式や演奏技法等の音楽分析を行うことによって、アイヌ音楽の特徴を明らかにしていくことを目的とする。また、それらの成果をもって、地域差や時代差を考慮したアイヌ音楽研究の情報基盤づくりに資するとともに、広く学習・教育の基本的情報として活用されるよう各地域での伝承活動への還元を行うことを目的とする。

## 3. 研究の方法

本研究は、前項に掲げた目的に向けて、具体的には次の3方向からのアプローチを行う。

(1)NHK 札幌放送局によるアイヌ音楽調査をまとめた『アイヌ伝統音楽』(1965)及び『アイヌの音楽』(1967、LP 盤)に掲載・収録された曲目を基準に、他の資料(公刊物)に収録された曲目と比較しながら、情報整理をする。いずれは地域別・時代別、歌い出しの歌詞など様々な方向から検索可能なデータとなることをめざし、当面は各資料の書誌情報を表計算ソフトを用いて入力し、集積・整理をはかる。

(2)国の重要無形民俗文化財である「アイヌ古式舞踊」の17の保持団体について、現時点での伝承状況を調査し、各地域にどのような曲目がどのような演奏様式で行われているかを明らかにする。ただし本研究開始以前に調査した2団体は除く。

(3)(1)で基準とした『アイヌの音楽』を対象に、旋律構造、歌唱様式、演奏技法といった要素を中心に分析を試み、音楽的な特徴を明らかにする。また地域別・時代別にどのような音楽的特徴が見いだせるかを明らかにする。

## 4. 研究成果

(1)アイヌ音楽資料の情報集約・整理

期間内に公刊物約 50 点(収録トラック数にして約 990 項目、ただし同じ音源を再販したものなども含めた合計)の情報整理を行った。

本研究の開始当初は図書館等の施設で公開されている音声・映像資料群も視野に入れていたが、公刊・市販された音声・映像資料でこれまであまり知られていない海外のレコード盤、国内の各地の伝承団体等による自主制作盤等、予想よりも公刊物の資料情報が多かったことから、情報整理の対象はひとまず公刊物に絞った。なおその際、『アイヌ伝統音楽』『アイヌの音楽』を基準に比較同定することからも、今回の対象はいわゆる伝統曲とされるもの、伝統的とされる演奏様式によるものに絞り、近代の電子楽器等を導入した作品、伝統的な旋律を借用した作品などは除外した(ただしもちろん将来的にはそうした新しい様式による新たなアイヌ音楽の情報や動向も視野に入れていくべきことは意識している)。

また、当初はこれらの情報から地域別に単純に分類できると考えていたが、資料によって収録地や演唱者の出身地の記載の詳しさが異なっていたり、地域区分の基準が不明であったり、演唱者の出身地と成人後の主な活動地が異なる場合の扱いなど、単純に振り分けできない要素がなお残ることが改めて判明した。さらに、収録曲の中には旋律に乗せて語る口承文芸なども含まれており、これを「曲」として計上するかどうかの線引きは難しい。また口琴(ムックリ)の演奏などは歌謡以上に同定の要件の見極めに慎重さが求められる。

こうしたことから、地域差や曲の同定などの詳細を逐一検討する前に、まずはジャンルにかかわらずアイヌの芸能(歌・踊り・楽器演奏・口承文芸の語り)を収録した音声・映像資料の書誌情報をできるだけ網羅し一覧できることを優先した。

このように「伝統的な音楽を収めた公刊物」と条件を絞ってもなお、今後も未探索の資料や、新たに作成される資料が公刊されることは当然

予測される。今後も新たに情報が加わればその都度更新し、公表を図っていくこととするが、さしあたって本研究実施中に集積した資料情報の詳細については、終了後得られた情報なども適宜加え、平成 29 年度内に公表する予定である。

## (2) 採録調査による成果

国の重要無形民俗文化財「アイヌ古式舞踊」の保持団体(17 団体)の活動状況等について、平成 27 年度後半から 28 年度前半までに情報収集や予備調査として定期練習や定例行事等を見学・訪問した。その中からとくに浦河アイヌ文化保存会及び白糠アイヌ文化保存会の 2 団体を主な対象として、それぞれ現在上演できる演目や年間の活動状況等について集中的に情報収集した。

うち白糠アイヌ文化保存会では採録の打診に対する積極的な反応があり、かつ今年度内の採録が日程的に可能であったため、数回の打合せ後 3 台の動画撮影カメラでの採録を実施した。

- ・採録演目数; 12 演目(うち 1 つは口琴演奏)
- ・録画時間計; 約 110 分(非公開予定箇所を含めた全体)

これらの採録資料は北海道博物館で登録・整理・編集し同館図書室で一般利用に供するとともに、同保存会の希望により伝承活動で活用できる汎用編集版を作成する予定である。

また浦河アイヌ文化保存会については採録には至らなかったが、同保存会が独自に作成・編集している歌詞集などの資料の提供を受けた。また同保存会による定期的な踊りの練習会や行事の見学・参加をとおして伝承の現況を把握した。

- ・浦河アイヌ文化保存会の伝承曲数;

平成 24 年度版の歌詞集で 36 演目

このほか、釧路市阿寒町での道東アイヌ文化連合保存会交流会(3 団体が参加)の見学、静内アイヌ文化保存会での練習見学(2016 年 5 月)、シャクシャイン法要祭(2016 年 9 月)での芸

能交流会における計14団体(前述の白糠アイヌ文化保存会と浦河アイヌ文化保存会を含む)による当日の上演演目調査なども実施した。

さて、白糠アイヌ文化保存会並びに浦河アイヌ文化保存会の現伝承演目を、『アイヌ伝統音楽』の掲載曲と比較したところ、両者に共通して次のような傾向が認められた。

- ・ 『アイヌ伝統音楽』で収録地がそれぞれ白糠を含む釧路地区及び浦河地区となっているものを選び出し、これを現在の伝承曲目とされているものとを照合すると、両団体とも『アイヌ伝統音楽』の掲載曲と現演目とが共通しているものは比較的少ない。また、現演目である曲と同系統と思われる曲が『アイヌ伝統音楽』では他の地域での収録曲として掲載されている場合も少なくない。
- ・ 『アイヌ伝統音楽』以外の音声・映像資料と比較してみると、が国の重要無形民俗文化財の指定を受け保持団体となった年(浦河アイヌ文化保存会は1984年、白糠アイヌ文化保存会は1994年)以降の各資料では、現伝承演目と共通する曲目がほとんどであり、大きな差異はみられない。

もちろん、『アイヌ伝統音楽』での収録地は、ある曲が複数の地域にまたがって伝承されていても、必ずしも全地域名を挙げているとは限らないので、現演目と重複が見られないからといって、近年になって伝承レパートリーが急に増大したということにはならない。また、『アイヌ伝統音楽』が当時の各地での全演目を収録・掲載しているわけでもないので、1960年代当時の伝承と現伝承との間に途絶があったということにもならない。ただ、少なくとも公刊された資料の情報をたどる限りにおいて、国の重要無形民俗文化財の指定(1984年・1994年)以降は、演目の一部に変化はあるにせよ、レパートリー全体としてはいちじるしい変動はなく現在に至っているといえる。

### (3) 音楽分析

前述のとおり本研究では『アイヌ伝統音楽』及

び『アイヌの音楽』を、公刊資料どうしの比較、あるいは伝承演目の地域差や時代差を比較考察する際の基準に設定してきた。このことから、音楽分析にあたっては、まず『アイヌの音楽』に収録された曲(計240項目、口承文芸や楽器演奏、樺太アイヌの伝承曲を除くと204項目)を対象とすることにした。

本研究開始の当初は、音組織・リズム・歌唱形式・拍節構造・歌唱法などのさまざまな要素一つ一つについて、採譜・分析する予定だった。しかし、204項目に対して1970年代以前の資料に顕著にみられる特徴的な歌い方(声の音色変化を優先して歌う、即興の変奏を繰返すなど)を構成する諸要素の分析も含めて実施することは現実的ではなく、まずは旋律全体を支配する1～数拍を単位としたサイクルの構造(拍節構造)における特徴の把握にテーマを絞った。中でも奇数を単位とした拍節構造に着目し、2声部で交互に旋律を繰返す「音頭一同」形式(二手に分かれた歌い手らが、一つの旋律を交代で歌って繰返す形式)での歌唱が拍節構造にも影響すると思われる例について考察し公表した(甲地2017)。以下はその概要である。

アイヌの伝統的な歌のレパートリーの多くは2拍または3拍を時間的な単位として規則的に繰返すという、拍節的な曲である。中には、その2拍単位と3拍単位を組み合わせた奇数拍節がある。本稿は、「音頭一同」形式が拍節構造の奇数拍節化に影響する場合について、仮説を提示する。

考察の対象は、『アイヌの音楽』収録曲のうち、「音頭一同」形式とみなされ、かつ、明白に拍子等で拍を刻む音が入る42曲である。

1コーラスを2拍または3拍を最小の単位として仮に区切ると、次の～のタイプがあることがわかる。

2拍単位の繰返しで進行する例

33/42曲(78.57%)

3拍単位の繰返しで進行する例

2/42 曲 (4.76%)

2拍単位と3拍単位を組み合わせた奇数拍節で進行する例(1コーラスを何度か繰り返しても変わらない)

2/42 曲 (4.76%)

繰り返すうち、拍節構造が変化する例

5/42 曲 (11.9%)

このうち の場合においては、同じ曲の1節が、ある場合は偶数拍節に、ある場合は奇数拍節に聞こえる。この要因の一つとして、繰り返しの際、後に続く声部が入るタイミングの違い、すなわち2~3拍単位のサイクルを守って入るか(図1の「交代方法 その1」)、1拍早く入るか(図1の「交代方法 その2」)に由来することが考えられる。こうした2声部間の1拍分の重なりが、偶然にせよ意図的にせよ、第三者である聞き手には奇数拍節の繰り返しとなって聞こえる(図2)ことになる。

図1

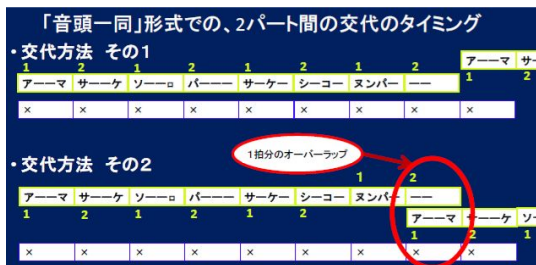
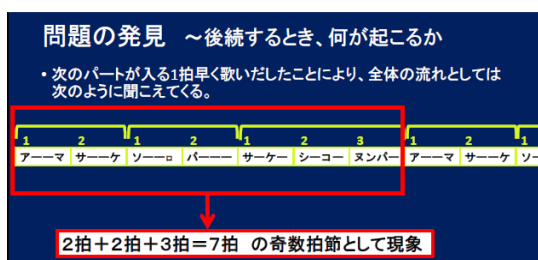


図2



むろん にはなお単なる偶然、偶発的な現象である可能性は残るが、続く声部が入るタイミングに対する許容度、つまり1拍早く入ることもあれば2拍ないし3拍を単位とするサイクルを厳密に守る場合もあるというある意味自在な拍節構造が、アイヌ音楽の特徴の一つとなる可能性が考えられる。

さらに、繰り返しのタイミングが早まるという構造に着目すれば、アイヌ音楽の他の歌唱形式、たとえばウコウクと呼ばれる、一つの旋律を数拍おいて次々追いかけるように歌う形式の構造とも類似性ないし近似性があるといえる。このことについては、先行研究においては小林幸男・小林公江「北海道アイヌの歌の諸相」(1987)で音頭一同形式の曲を「ウコウクの種類ともいえる」と短く言及している以外にはとくにその後取り上げられてきていない。本研究は、拍節構造と歌唱形式との関係性を、奇数拍節にも偶数拍節にも歌われる実態に注目して改めてその関係性にかかる仮説を提示したものと、アイヌ音楽研究に成果として貢献できるのではないかと考える。

以上、本研究を通じて、アイヌ音楽の音楽学的研究の基盤となる音声資料の情報を一定以上集積した。今後さらに情報が集積されていくことが予測されるので、都度の更新・公表を実施していきたい。

アイヌ音楽の伝承の現況について、今回は主に2つの伝承団体を対象に集中的な情報収集し、1団体について採録を行うことができたが、今後は他の団体についても同様の情報収集が必要である。本研究で進めたと同様、関係者との信頼関係の構築を確実に進め、かつ関係者の人権を脅かす恐れのないよう細心の注意を払うことを念頭に、調査対象を広げていきたい。

アイヌ音楽の音楽学的分析は、一見、伝承活動には直接関わりのないようにも見られるが、伝承のいったん途切れた曲目を再現するには、音声資料等の活用と同時に、感覚で「伝統的」と捉えられる要素が何であるのか、客観的に説明できる根拠となる研究が不可欠である。同時に、そうした音楽分析の結果を、一般にもわかりやすい言葉や方法で公表・普及していくことが必要である。その際、応用民族音楽学と呼ばれる比較的新しい分野の研究の動向なども踏まえて、音楽分析が机上だけの学問にならないよう、方向性を探していきたい。

5. 主な発表論文等(研究代表者、研究分担者  
及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1 件)

甲地利恵、アイヌ音楽における奇数拍節及び  
「音頭一同」形式との関係について、北海道博  
物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要、査  
読有、第2号、2017、41-52

[学会発表](計 1 件)

甲地利恵、演奏される拍節構造 - アイヌ音楽  
に於ける音頭一同形式の歌を対象に -、北海  
道民族学会 2015 年度第 2 回研究会、2015 年  
12 月 12 日、酪農学園大学

[図書](計 0 件)

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

[その他]

なし(ただし平成 29 年度内に資料情報書誌事  
項を北海道博物館ホームページ等でも公開予  
定)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

甲地利恵(KOCHI Rie)

北海道博物館・アイヌ民族文化研究センタ

一・研究職員

研究者番号:20761638

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

なし